

**多言語センターFACIL
ワールドキッズコミュニティ**

2016年度事業報告

[2016年4月1日～2017年3月31日]

1. 2016 年度事業の振り返りと総括

<全体総括>

2016 年度は、新しい運営体制の初年度となり、整えていかなければならないことが多くありました。職員もこれまでエフエムわいわい関連の業務担当がなくなり、FACIL の本体業務体制への整備が進みました。FACIL 業務専任職員の増加により、結果的には、翻訳・通訳事業はかなり躍進をとげることになりましたが、そのボリュームを維持するための仕事の創出が求められることを十分に意識した広報や仕事の展開、ネットワーク構築の結果だったと思っています。これを支える技術やデザイン力も大きな役割を果たしました。今後は、このモチベーションを次年度にも継続させるための戦略が必要になってきます。

同時に、就業規則そのものを、理事と職員全員で見直し、自分たちの職場としての体制も整備していきました。そのプロセスで、職員全員が、団体の活動や働き方についてのコンセプトを再考する機会にもなったと思います。そして 11 月からは新しい常勤職員も迎えました。

継続して取り組んできた医療通訳システム構築に向けた活動は 14 年目になり、兵庫県の委託という形で、医療通訳研究会を立ち上げて協議を続け、最終的なラウンドテーブルでは兵庫モデルを示した全国的な提言の足がかりを築き、次年度は協議会の設立ということも決まりました。あともう一息で、システムに近づけそうです。しかし、件数ともはや数百件となり、モデル事業のままでは、これ以上の件数をこなすのが困難になる限界線をそろそろ迎えています。

また、2016 年度は「まちはイキイキきらめき講座」や「通訳者のための災害医療セミナー」などの開催をすることによって、これまで培ってきたネットワークを実感し、基本的な活動趣旨に立ち返ることもできました。新しいチャレンジとして、多くの協力者を得て JICA 研修事業を FACIL 独自の視点で組み立てて応募、採択には至らなかったものの評価は予想以上の高さで、次のステップへの自信とネットワーク構築につながっています。

ワールドキッズコミュニティの活動は、設立当初から柱のひとつである、二つ以上の言語環境で育つ子どもたちの言語形成に配慮した教育環境について、トヨタ財団の助成をうけた活動も 3 年目を終え、日本と韓国で共有・確認した情報をフィリピン研究および活動の関係者たちにつなげて意見交換する場も設定できました。これらの内容は報告書（日・英語）と、家庭での母語学習マニュアル（英・韓・西語／日本語併記）という成果物を通して可視化、関係者に届けることができました。引き続き、このテーマでの活動は、大学との連携などで続けていきます。

そして、外国ルーツの子どもたちの表現活動 Re:C は、常にインターンの大学生たちが関心を寄せる活動ですが、そこには活動の卒業生たちが先輩として関わり、コーディネーターとしても力を発揮してくれるようになり、この活動の意義を感じることができるという醍醐味があります。

以上のようないずれの活動も、外国にルーツをもつ住民の協力と活躍がベースとなっているものです。そこには今後の継続のための仕事づくりがますます求められています。そのことを肝に銘じて、地に足をつけた活動基盤を築くよう、これまでの FACIL とキッズの居心地のいい文化を忘れることなく、全員が一丸となって頑張りたいと思っています。これまでの活動を支えてくださったみなさんにあらためて深く感謝をし、今後とも応援して下さいませよう、どうぞよろしく願いいたします。

多言語センターFACIL 理事長、ワールドキッズコミュニティ代表
吉富 志津代

2. FACIL/キッズの運営に関する事項

1) 基本理念の確認など

多文化共生社会の推進という共通理念に基づき、特定非営利活動法人たかとりコミュニティセンターのネットワークの中で、カトリックたかとり教会に拠点をおき、翻訳・通訳、多言語 Web・DTP、多言語音声制作、外国にルーツを持つ住民との連携活動などの事業に取り組む公益活動団体の運営支援および連携の強化に努め、質の高い協働事業の展開をとおして、外国出身の住民も含む地域の多様な立場の人々が誰も排除されることのない、安心できるまちづくりに寄与することを目的とする。

また、新たな戦略と手法で、スタッフ各自が積極的に活動における自分の役割を担い、雇用される側ではなく自分の雇用を生み出す姿勢をつくる。

2) 各団体の概要

■特定非営利活動法人 多言語センターFACIL

地域ニーズに根ざした翻訳・通訳事業を基盤として、多文化なコミュニティビジネスを展開し、対応言語は 57 言語に及ぶ。医療通訳システムの構築にむけた取り組みは 14 年を経て、ようやく神戸市の 3 病院を中心に、兵庫県の病院や大学病院も、協力病院として主体的に関わる形が見えてきた。グループ内の団体との連携事業などの企画/実施によって、グループ全体の特性を活かし、持続可能な市民活動を支える事業部門としての役割を担う。

■ワールドキッズコミュニティ

多文化な子どもたちを取り巻く環境の改善に取り組み、誰もが自分のアイデンティティに自信をもてるような青少年の発信/育成支援に取り組んでいる。現在は、バイリンガル環境で育つ子どもたちの言語形成に関する提言活動を経て、韓国との連携による国際シンポジウムの開催へと活動を展開中。

3) 決算および事業図の説明

●決算について

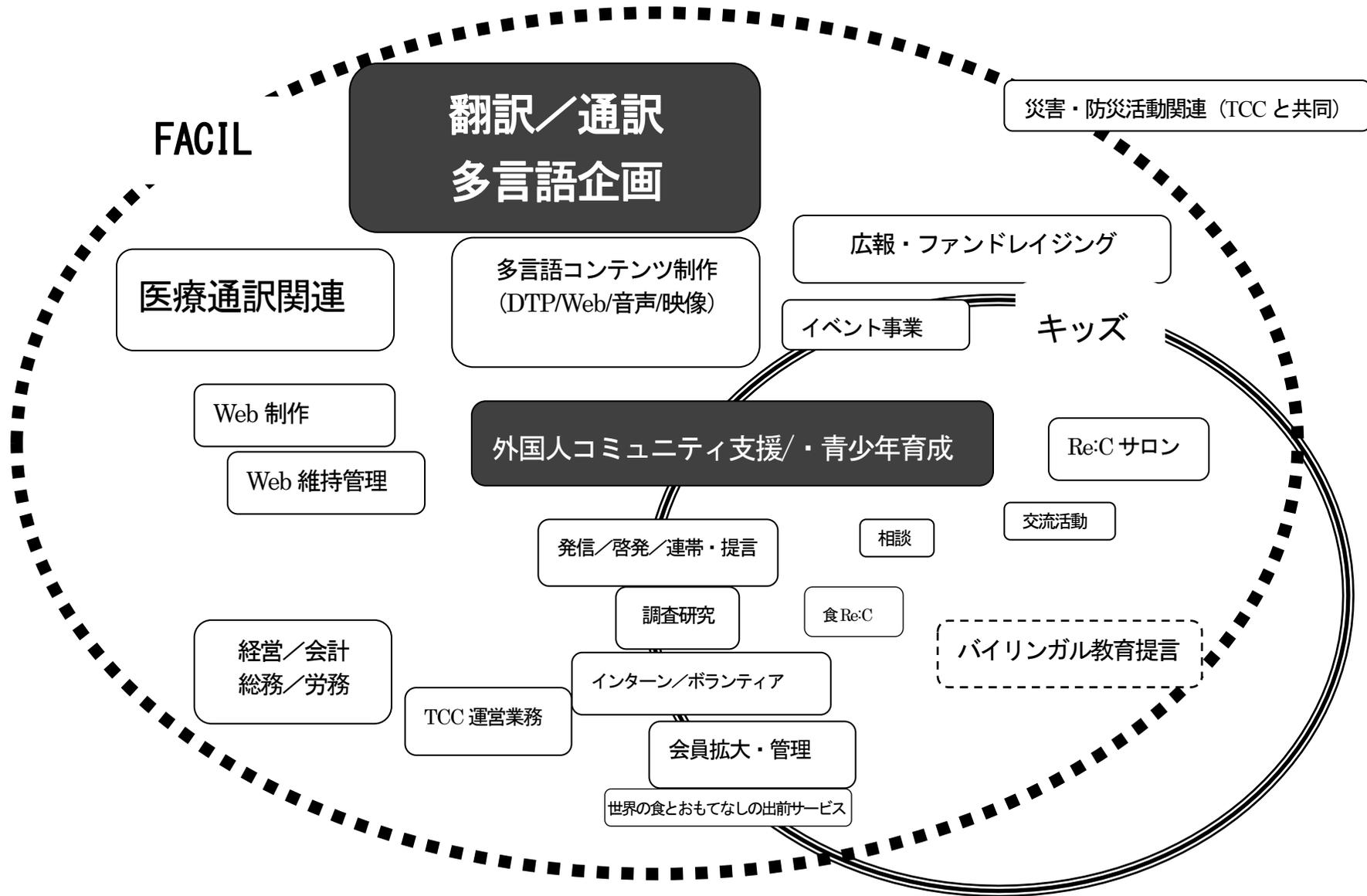
多言語センターFACIL、ワールドキッズコミュニティは、連携した経営を行っているが、それぞれの団体の決算書が存在する。

●事業図について

団体は○で、プロジェクトは□で表記する。点線の□は期限付の事業とし、○の大きさは、年間の事業費および事業に関わる人数を考慮したボリュームを表す。ふたつの団体の重なり合う部分で実施されている業務も多く、全体の事業費の基盤を支えるのが翻訳/通訳事業および Web 制作（多言語・日本語）であることがわかる。

今年度の特徴として、引き続きバイリンガル教育提言、医療通訳事業に関わる委託事業を実施した。

<FACIL/キッズ事業図 2016>



<<職員所属および担当について>> 2016年度（2016年4月1日～2017年3月31日）

●多言語センターFACIL

- ・李 裕美（FACIL 事務局長／翻訳・通訳コーディネーター／医療通訳関連など）
- ・村上 桂太郎
（キッズ事務局長／総務／経理補佐／ICT 関連／翻訳・通訳コーディネート補佐／TCC 事務局業務など）
- ・田口 靖幸（Web／ICT 関連／ネット販売など）
- ・安西 佐有理（翻訳・通訳コーディネート／FACIL データ管理／FACIL メールニュース配信など）
- ・平野 由美子（医療通訳関連／翻訳・通訳コーディネート／庶務関連／会員管理など）
- ・山口 まどか_11月より雇用開始
（医療通訳関連／翻訳・通訳コーディネート／インターン・ボランティアコーディネートなど）
- ・平岡 いつき_非常勤（医療通訳関連／インターン・ボランティアコーディネートなど）
- ・玉田 なつみ_非常勤（翻訳・通訳関連補助／その他）
- ・堺 亜紀_非常勤（翻訳・通訳関連補助／医療通訳関連／その他）

●ワールドキッズコミュニティ

- ・松原 ルマ_非常勤（Re:C ボランティアコーディネート／その他事務作業）

●雇用外

- ・吉富 志津代
（FACIL 理事長／ワールドキッズコミュニティ代表として管理・運営全般）

3. FACIL/キッズ事業に関する事項

(1) 翻訳/通訳関連事業

<業務総括>

実施件数は613件で、前年度(560件)から増加となった。翻訳・通訳登録者数は1170名、これまでの対応言語は57言語(2017年3月現在)。10月に翻訳・通訳登録をHP上で行えるようになり、以後、登録者数は大幅に増加している。

依頼についてはリピーターや紹介による新規案件が大半で、各コーディネーターが経験を積んでスキルを高め、そのことによって着実に顧客の信頼を得ているといえる。一方、複数のコーディネーターが案件をそれぞれ担当するなか、各コーディネーターの抱える顧客や案件内容を共有する重要性は日々高まっており、特に毎週の翻訳・通訳ミーティングでの情報共有に力を入れた。

2015年度には翻訳・通訳も含め、すべての業務が集中する年度末にマンパワーの確保が課題となったが、2016年度はその教訓を生かし、11月に翻訳・通訳コーディネーターとしてフルタイムスタッフを新規に雇用し、さらに11月から3月までインターンの大学生をアルバイトとして雇った。そのため、例年に比べ繁忙期の状況が大幅に改善された。また、翻訳やレイアウトについても外部委託先を活用し、どうしても対象言語の翻訳・通訳者を見つけられない場合を除き、依頼を断ることなくまっとうすることができた。

数年来の課題であった急な欠員への対応は週1回のミーティングに加え、各コーディネーターが経験を積みスキルアップに努めてきたことが功を奏し、よりよい体制になりつつある。この体制を支えている、設立時から変わらず培われてきた「協力しあい、支えあう」文化を絶やさないようにしたい。

一方、医療通訳件数が計491件になり、翻訳・通訳事業に迫る勢いである。コーディネーターのスキルと経験の向上、医療分野に対応できる翻訳・通訳者の開拓・育成、クライアントの信頼性獲得などプラスの効果も見られるが、医療通訳件数の増加に伴い、他事業を圧迫しつつあることも事実である。コーディネーターの負担をなるべく軽くする体制を今後、整えていく必要がある。また、医療通訳事業に注目が集まり、本業である翻訳・通訳事業に目を向けてもらいにくい傾向も見受けられる。医療通訳事業を支えている翻訳・通訳事業についてもしっかりと伝えていかねばならない。

NPOとしての独自性を大切に、翻訳・通訳ビジネスのみならず、医療通訳事業や多文化・多言語提言活動をはじめとする社会貢献活動、たかとりコミュニティセンター、他の団体などとのネットワーク、協力体制など、日々の活動をSNSなどを使って発信を心がけたことで、メールマガジンは翻訳・通訳者にとって有益な情報提供の場、FacebookはFACILファンの開拓やコミュニケーションツールとなりつつある。

■翻訳・通訳コーディネーターに係る環境整備について

2016年度の翻訳・通訳コーディネーターに係る環境整備の実施状況と課題は下の通り。

・翻訳・通訳者やコーディネーターの経験や技術、課題を共有できる仕組みづくり

多文化・多言語まちはイキイキきらめき講座、災害医療通訳セミナー、結核セミナーなどを開催し、翻訳・通訳登録者やコーディネーターの出会いの場、学びの場となった。今後もこのような試みを継続していく。

・利用者や登録者、関係者向けSNS、ブログ、メールマガジン等での情報発信

スタッフ全員が情報発信に関わるようになりつつある。頻度等ばらつきがありバラバラに展開しているため、今後は方向性や戦略を練る必要がある。

・翻訳業者やレイアウト業者など外部委託先の選定とレイアウト登録者の募集

外部委託先を積極的に活用し、レイアウトができる登録者にも仕事を依頼した。レイアウトに関しては、FACILの求めるレベルの確保とデザイナー育成とレイアウト登録者の新規募集が今後の課題。

・大型案件(100万円以上)におけるコーディネーター体制

コーディネーター2名以上での対応を想定していたが、繁忙期には難しい側面があった。1名体制でミーティン

グで情報共有をしっかりと行い、状況に応じてサポートに入る方法が現実的と思われる。

- ・マイナンバー対応と源泉所得税の控除方法（国内個人、団体、海外在住者等）の見直し
マイナンバー対応は保留。源泉所得税の控除は税務署に確認し、現状（国内個人のみ控除）で問題なし。
- ・入札参加資格（「全省庁統一一般競争（指名競争）参加資格」等）の活用と新規登録先の開拓
JICA 課題別研修「中米防災対策」業務委託公募で「全省庁統一一般競争（指名競争）参加資格」を活用。神戸市、芦屋市、堺市に新規登録したが、神奈川県についてはコスト面から断念した。
- ・他団体や行政機関等との関係性の強化
近場での通訳や翻訳納品時になるべくコーディネーターが依頼者を訪問するようにした。さらに積極的に関係性強化のため出向くことが重要。
- ・医療通訳専用の電話の開設
医療通訳件数の増加により、一般翻訳・通訳の電話がつながりにくいなど課題になっていたが、専用電話を開設し、状況は改善し利便性も高まった。
- ・翻訳者・通訳者への支払い
依頼時のメール文を変更し、支払時期に関する問い合わせは激減。今後もわかりやすい案内を心がけていく。
- ・決済方法の多元化
海外案件における簡便・円滑な支払方法を検討し、Paypal を選定。登録が急務である。

※顧客のニーズ&満足度調査、東京近郊の通訳料金調査、新料金体制の検討は未実施のため、次年度以降に繰り越し。

① 一般翻訳事業

機械翻訳の精度が向上して、自治体が Web サイトに導入する動きが拡大する一方、翻訳サービスの国際規格「ISO17100」認証を取得する翻訳サービス提供者が散見されるようになるなど（英日・日英、2015年5月発効、認証事業者2015年度・計7件、2016年度・計26件）、一般的には「即時性、低料金」と「質の確保」が共にクローズアップされる年度であったといえる。

FACIL で受注した案件の多くも、抑えた料金や限定された納期で、高い品質が求められるものではあった。しかし、機械やマニュアルによる画一的な対応がむずかしい案件が、ますます中心になっていると見受けられる。たとえば、一見すると平易な行政情報や観光地・製品の広報物などであっても精度や表現力が要求されるものや、多言語への同時翻訳、未知の翻訳サービス提供者には依頼しにくい機密性が高い文書、原稿や翻訳形式に対するアドバイスも含めた依頼などである。

結果として2016年度も実施の大半は、リピーター顧客からの依頼であった（Web サイト等を見て新規に発注された依頼者を含む）。医療通訳の実績をふまえた依頼や、講演などの訪問先で活動を知ってもらうことで受注につながった案件もみられた。実績を重ねることでの信頼構築と同時に、地理的・心理的な「依頼のしやすさ」や「こまやかな対応」など、神戸で活動する小規模の団体ならではの特性を活かす方向性が求められている印象を受ける。

② 一般通訳事業

従来から大きな変化はないが、専門性や経験が求められる、比較的高度な通訳の依頼がめだつた。たとえば、医療・保健分野（協定医療機関以外で実施する検診、高度医療等）や、先端的で専門性が高い分野でのビジネス通訳などである。

マッチングが難しかったり、コーディネートの配慮・工夫を要する案件も多々あった。稀少言語、緊急・遠方の問い合わせ、依頼者側と通訳者側の「通訳イメージ」乖離が大きい依頼（「全部訳さないでよく、会議の要所をかいつまんで教えてほしい」等）、通訳者が中立的立場を守りにくい内容（依頼者や相手方が、通訳者と直接・間接に知人の可能性がある等）などが含まれる。

それでも、通訳やコーディネートの質、料金設定などの実績に対して、顧客から一定の信頼を得られているのは、

継続依頼（リピーター）が半数以上を占めていることから推察される。観光通訳ガイド、研修、視察などの通訳を連続して受注したほか、商談通訳と共に関連文書翻訳や相手先との外国語 E メール連絡業務なども総合的に任される事例もあった。

また、コーディネーターが実施現地を訪問する機会をつくる試みをはじめた。通訳現場の状況について知見を深めたり、依頼者や通訳者・関係者と対面で情報交換することを通じて、コーディネートの質の向上や、新たな業務展開につなげる効果をめざしている。

③ コンテンツ事業（印刷・Web、音声・映像など）

<印刷物・Web サイト制作> 計20件

印刷物のテキスト差し替え（外国語版の版下データ作成）について、外注先の開拓に力を入れはじめた。大型の案件受注時や、年度末の繁忙期に対応が可能となった。ただし外注先の技術力や経験は一定でなく、FACIL 内部での作業水準や方法に合致しない場面もあった。それにより外注先と共有しておきたい要点が明らかになったことで、今後はさらに柔軟に作業の内製化と外注を使いわけして、より多くの案件を受注できる可能性がでてきた。

具体的には、外注先のデザイナーとして求められるスキルとしては Illustrator 外国語→日本語の置き換えができるだけではやはり不十分であると感じた。経験の浅い外注デザイナーに委託した場合、逐次 FACIL 側がフォローしなければならず、それなりの負担を覚悟しなければならない。そのため、今後、FACIL 側での外注先に対するフォローの手間を少しでも軽減するために、経験の浅い外注先デザイナーに対してはルールやポイントを記したガイドラインを作成し、従っていただくことを徹底したい。

<ナレーション収録、ナレーター派遣> 計10件

多言語での音声収録やナレーション派遣の問い合わせは、年々増加傾向にある。そのため、ホームページ上のナレーション説明ページの再整備に取り組んだ。ナレーション経験の浅い登録者に対してトレーニングを実施するなど、ナレーションをできる人材の発掘と確保にも力を入れた。

音声収録・編集担当者が翻訳のコーディネートを兼ねてきたが、翻訳のミスに気がつかないまま、ナレーション収録し、結果、クライアントからの指摘を受けて取り直す必要が生じた案件も複数あり、時間的にも金銭的にもコスト負担がおおきくなってしまった。そうした事態を防ぐためにも、ナレーション収録をかねた翻訳案件ではコーディネーターとは別の翻訳チェッカーを設けるなどの必要がある。

④ その他 通訳翻訳

(イ) 相談機関等での面談・電話通訳

- ・東大阪市男女共同参画センター「イコーラム」多言語相談業務。継続して契約受託。実施はなし。
- ・兵庫県立女性家庭センター 外国人相談者に係る通訳。
実施9件（タガログ語、ベトナム語、トルコ語）。
- ・神戸市介護保険コミュニケーション・サポート事業。2012年度より継続して、契約受託（中国語）。
登録通訳者「介護保険コミュニケーション・サポーター」3名。
サポーター派遣実施および契約外言語によるボランティア通訳紹介等なし。
- ・兵庫県健康福祉部健康局疾病対策課「兵庫県外国人結核患者指導にかかわる通訳者コーディネート業務」。
実施なし。
- ・神戸市保健福祉局健康部予防衛生課「神戸市結核患者等医療通訳業務」（2017年2月1日～）。
実施1件（モンゴル語）。医療通訳結核研修（行政・病院関係者30名および通訳関係者29名）

(ロ) 災害・非常時等の翻訳・通訳

- ・神奈川県（有償）。「災害時・非常時多言語緊急情報翻訳業務」受託契約を継続。
箱根山関連の翻訳（計2回）。

多言語センターFACIL 2016年度(4月～3月) 一般翻訳通訳実施状況

※4月1日～3月31日の間に納品完了した案件。医療通訳以外。日本語のみによる業務、研修講師の一部含む。(3月31日時点で代金未収のものを含む)

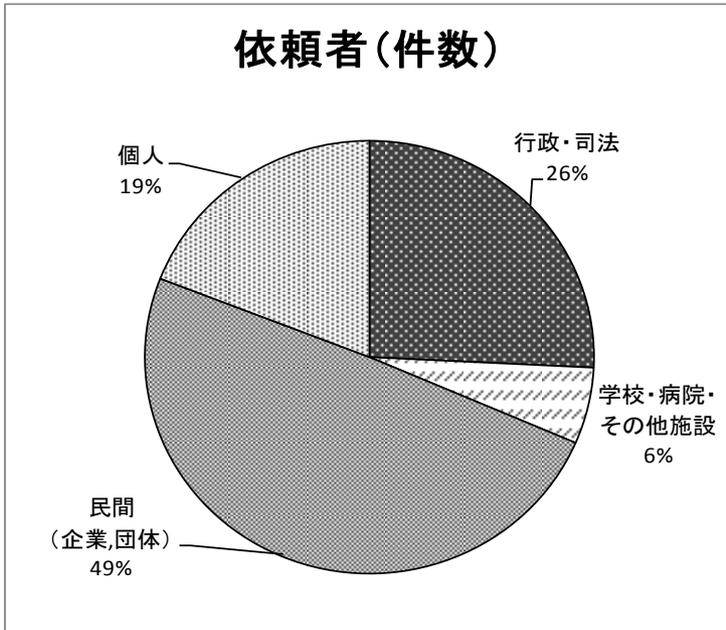
依頼者	件数	金額
行政・司法	158	¥10,904,372
学校・病院・その他施設	35	¥2,096,762
民間(企業,団体)	303	¥19,551,881
個人	117	¥1,790,001
合計	613	¥34,343,016

(参考:2015年度)

143	¥6,775,236
30	¥2,112,941
258	¥17,247,415
130	¥1,771,305
561	¥27,906,897

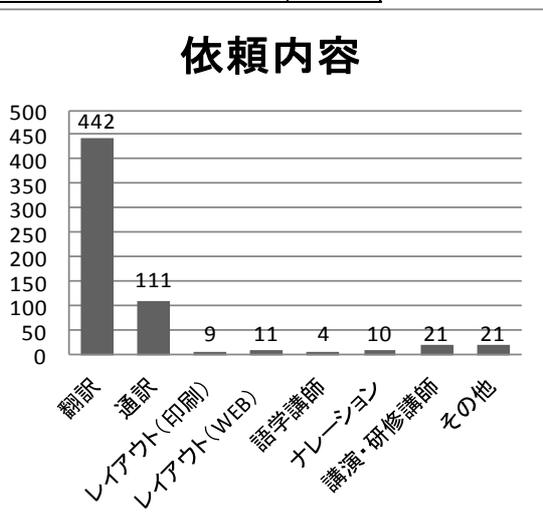
依頼言語	件数	(2015年度)
英語	363	338
中国語(簡)	120	114
中国語(繁)	64	64
中国語(普通話)	34	21
※通訳、ナレーション		
韓国・朝鮮語	104	125
ベトナム語	78	47
スペイン語	35	42
ポルトガル語	33	40
タガログ語	26	24
フランス語	25	20
タイ語	24	37
インドネシア語	15	25
ミャンマー語	11	7
アラビア語	5	8
クメール語	5	8
ドイツ語	5	7
ラオス語	4	2
イタリア語	3	5
マレー語	2	2
その他 (ロシア、ポーランド、デンマーク、トルコ、モンゴル、ネパール、カレン)	7	12
日本語	94	48
合計	1057	996

依頼者(件数)



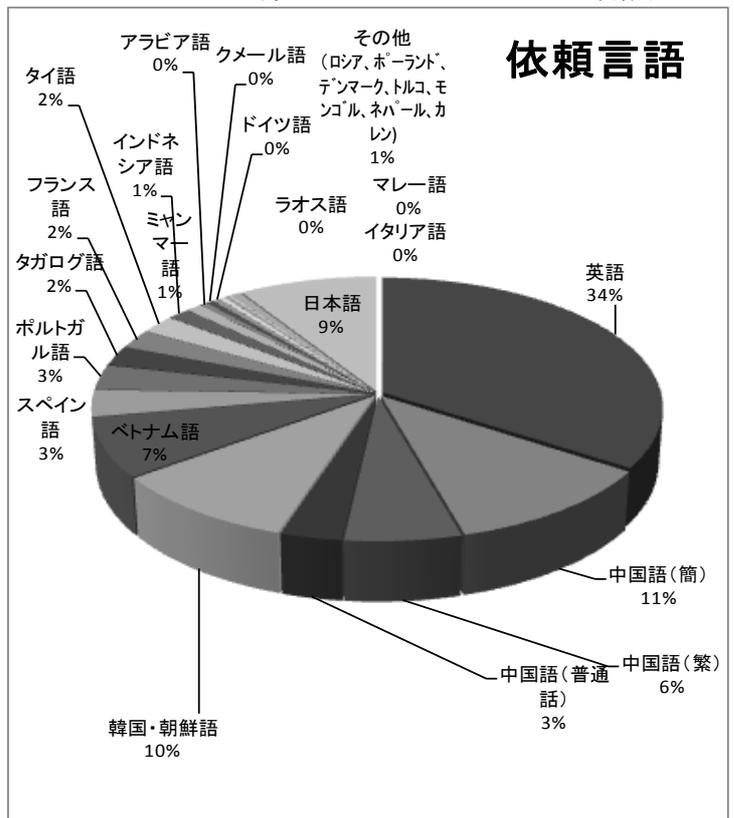
依頼内容	件数	(2015年度)
翻訳	442	417
通訳(医療通訳以外)	111	94
うち、相談窓口通訳9		うち、相談窓口7
レイアウト(印刷)	9	5
レイアウト(WEB)	11	9
語学講師	4	6
ナレーション	10	18
講演・研修講師	21	5
その他 日本語文字おこし等	21	22
合計	629	576

依頼内容



*日本語には「やさしい日本語」、日本語による講演含む。多言語レイアウト中の日本語は上記に含まれない場合がある。
* '15年度「その他」=アムハラ、ウスベク、ウルドゥ、シハラ(各1)

依頼言語



特定非営利活動法人多言語センターFACIL 主な一般翻訳・通訳等実績

(2016年4月～2017年3月 自主事業含め受注価格15万円以上の案件のみ)

区分	実施内容	依頼者	言語
翻訳	在住外国人社会参加促進用 日本語通信講座教材	企業(教育、教材)	英、カレン、ミャンマー
	東京オリンピック・パラリンピック事前合宿招致に係る施設概要等	兵庫県	中(簡)、葡
	外国人住民向け生活ガイド	堺市	英、中(簡)、韓、越、西、葡、インドネシア、タイ、タガログ
	阪神・淡路大震災 自治体復興過程記録紹介冊子	企業(印刷・出版、制作等)	英、中(簡)
	まちづくり推進計画(小学校区別)	八尾市	英、中(簡)、韓、越
	マラソン大会ガイド	徳島県	英、中(簡)、中(繁)
	購買条件契約書	企業(工業)	英
	植物園ガイドマニュアル	団体(九州:緑化・施設管理)	英、中(簡)、韓
	産業技術フォーラム プレゼン資料	鳥取県	中(簡)、韓
	植物園ガイドマニュアル	団体(九州:緑化・施設管理)	英、中(簡)、韓
	バイリンガル・マルチリンガル子どもネット報告書	個人	英、中(簡)、西
	研究論文(歴史/文学/社会学)	個人(研究者)	英
	外国人市民実態調査 校閲	三木市	英、中(簡)、韓、西、葡、越、タイ、タガログ、アラビア
	介護関連テキスト	企業(教育、教材)	越
	シンポジウム・ラウンドテーブル報告書	バイリンガル提言	英
	日本庭園プレゼン資料、年中行事チラシ、リーフレット	団体(関西:緑化・施設管理)	英、中(簡)、越、タイ
	まちづくり推進計画(小学校区別)	八尾市	英、中(簡)、韓
	乳幼児健診関連文書(歯科、BCG、健診質問票)	堺市	越
	多言語生活ガイド 更新	西宮市	韓、西、葡、仏、やさしい日本語
	調査用紙 保護者用/小・中学生用	八尾市	越
	シンポ・ラウンドテーブル報告書	バイリンガル提言	英
	広報紙(季刊、1回分)	芦屋市	英、中(簡)、韓
	商店街概要	企業(Web、印刷、製作等)	英、中(簡)、中(繁)、韓
不動産売買関連書類	企業(不動産)	英、日	
ユネスコパーク登録申請書文献リスト	宮崎県	英	
翻訳 ナレーション	海外現地法人社員向けIT教育コンテンツ	企業(化粧品、医薬等)	英、中(簡)、中(繁)
	観光地紹介DVD 台本・字幕翻訳、ナレーション	企業(映像制作)	英、中(簡)、韓
	交通機関案内 台本・字幕翻訳、ナレーション	企業(音声コンテンツ制作)	英
翻訳 レイアウト(印刷)	外国人児童生徒の保護者向けアンケート調査票	企業(教育、教材)	英、中(簡)、韓、西、葡、タガログ
	外国人住民向け生活ガイド日中併記版(改訂)	企業(印刷・出版、制作等)	中(簡)、日
	ごみカレンダー	川西市	英、中(簡)、葡
	母語教育マニュアル	バイリンガル提言	英、韓、西
	外国人住民誘致ガイド	三田市	英
台湾人観光客向け 尼崎体験プログラム・チラシ	尼崎商工会議所	中(繁)	
通訳	港湾物流人材育成プログラム	団体(関西:国際協力)	越
	産業技術フォーラム(同時)	鳥取県	中、韓
	工場実習	企業(工業)	インドネシア
	工場実習	企業(工業)	インドネシア
	港湾物流人材育成プログラム	団体(関西:国際協力)	越
	医療資材物流センター説明・会議(逐次、同時)	企業(医療機器、医療用品)	英
	社内会議通訳	企業(医療機器、医療用品)	英
	製品PR説明会	企業(医療機器、医療用品)	英
	震災関連国際シンポジウム、打ち合わせ(逐次)	関西大学	中(簡)
	商談通訳	企業(繊維)	中
通訳 翻訳	国際会議および神戸フィールドワーク 通訳、プレゼン原稿翻訳	内閣官房	英
	社員向けe-ラーニング教材 ナレーター派遣	企業(翻訳通訳)	英
レイアウト(WEB)	社員向けe-ラーニング教材 ナレーター派遣	企業(翻訳通訳)	英
	団体ホームページ制作	(特活)遊び雲	日
	団体ホームページ修正・改訂	神戸市長田区社会福祉協議会	日
	法律事務所ホームページ保守契約(年額)	法律事務所	日
語学講師	法律事務所ホームページ修正(SEO基本設定・スマホ対応)	法律事務所	日
	公務員向け夏期集中語学研修	民間語学学校	越、アラビア
語学講師 講演・研修講師	コミュニティ通訳ボランティア養成講座企画、講師派遣	(公財)しまね国際センター	日、葡
その他	「ジュニア認知症サポーター養成講座」動画制作	神戸市兵庫区社会福祉協議会	日

(2) 医療通訳事業

<業務総括>

医療通訳件数が491件(協力病院432件、協力病院以外59件)に及び、翻訳・通訳事業に迫る勢いである。翻訳・通訳事業と並行して、これだけの件数の医療通訳コーディネートをこなすことで、コーディネーターのスキルと経験が高まり、確実に本体事業である翻訳・通訳のコーディネートの効率や質の向上に結実している。OJTベースでの医療分野の通訳者の開拓、育成の場ともなっており、医療に特化した翻訳・通訳に対応できる登録者層が厚くなってきている。また、この実績がクライアントの信頼性を高め、一般翻訳・通訳事業の医療関連の翻訳・通訳案件の受注につながっている。

本事業を通して、FACILの知名度の向上、遠隔通訳に取り組む企業とネットワークができ、共同で「あいち医療通訳派遣システム」の2017年度委託の企画競争に挑戦した(惜しくも入札ならず)。

医療通訳コーディネーター体制としては、2016年度前期は1.5名体制(翻訳・通訳コーディネートと兼務)、後期は2名体制(翻訳・通訳コーディネートと兼務)で行った。後期はさらにインターン1名が医療通訳事業でコーディネート補助をつとめた。件数の増加に伴い、兼任のコーディネーターへの負担が増しているため、より負担の少ない体制を検討する必要がある。

① 医療通訳モデル事業

神戸市内などの六つの協力病院(神戸市立医療センター中央市民病院、同西市民病院、西神戸医療センター、神戸大学医学部附属病院、兵庫県立こども病院、兵庫県立尼崎総合医療センター)が医療通訳謝金の7割(患者が3割)を負担をするモデル事業の六年目で最終年度であった。

(イ) 実績

通訳総件数432件(キャンセル22件含む)、患者数115名、依頼言語数14言語。(上位三言語、ベトナム語158件、中国語[北京語]105件、英語72件)

※参考:2015年度299件[キャンセル7件]、患者数83名、依頼言語数11言語(上位三言語は同じ)

・地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院

198件[キャンセル10件含む]

依頼言語数は12言語。英語の依頼が約四分の一を占めるが、必ずしも英語が母語ではない方の依頼が多く見受けられた。(エチオピア、タンザニア、キルギスタンなど) 広東語10件はすべて中央市民病院の依頼。

内科系、外科系、周産期・小児部門等まんべんなく依頼がある。中でも産科が約四分の一と多い。出産される方は妊娠初期から分娩、1ヶ月検診まで定期的に受診されるので依頼件数も必然的に多くなる。出産のために医療通訳を利用した方が、自分が属するコミュニティや国際交流協会でその実体験や有意義性を語ることで、その知人が通訳者を指名して依頼してくるという例もあった。また、患者自身は日本語話者であるが重篤な状態で会話ができないため、外国語話者である配偶者からの依頼もあった。外国人患者は医療通訳サービスも含めて地域の病院やクリニックからの紹介で中央市民病院を受診されることが定着しつつあるようだ。

・地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター西市民病院

126件[キャンセル4件含む]

依頼言語はベトナム語、中国語[北京語]、韓国・朝鮮語の3言語。神戸市内でも特にベトナム人が多く定住している長田区、兵庫区が診療エリアに含まれているため、件数の90%以上がベトナム語で、さらにその半数は産婦人科の受診者である。産婦人科以外では小児科、内科系受診での依頼が多く、ベトナム人コミュニティの中で西市民病院での医療通訳利用が広がっていると思われ、通訳者が街中で医療通訳を直接依頼されることもあり、病院につなぐケースもあると聞いている。しかし、その需要の多さに比べ対応できる通訳者の数が限られるため、通訳者数の増加と質の確保、広報等対策が急務である。

- ・一般財団法人神戸市地域医療振興財団 西神戸医療センター 4件

例年件数は少ない。2017年度から地方独立行政法人神戸市民病院機構に事業譲渡され市立病院となる。

- ・神戸大学医学部附属病院 93件[キャンセル6件含む]

依頼言語は中国語[北京語]が約6割。診療科は内科系(精神科神経科を含む)で半数を占める。2015年度に協力病院となったが、二年目で初年度の約2倍の件数。高度先進医療の提供という病院の機能上、通訳者にも高度なレベルを要求されることがある。診察・検査等の他にインフォームドコンセント、手術の立ち会い、終末期の患者や親族への告知の場面もあり、通訳者のメンタル面にも影響は大きいと推測される。また、高額療養費、自立支援医療、重度障害者医療等助成制度に関する通訳もあり、通訳者の知識向上も求められる。

- ・兵庫県立尼崎総合医療センター 2件[キャンセル1件含む]

協力病院になって二年目でまだまだ件数は少ない。医事課担当者からあらかじめ問い合わせがあっても実際に通訳派遣にまで至ることが少なかった。産科で女性通訳者希望の問い合わせが多いが、言語によっては女性に限らず通訳者自体が少なく今後の課題である。

- ・兵庫県立こども病院 9件[キャンセル1件含む]

2016年5月、須磨区から中央区港島南町(ポートアイランド)に移転。例年件数は多くはない。周産期・小児医療の総合施設として母子に高度専門医療を提供するという病院であるため、内容も専門的で高度な場合が多い。他地域(東海地方)から来られる患者の通訳依頼もあった。

(ロ) 検証会議

年一回、関係者による医療通訳検証会議を実施。(2016年6月17日)

2015年度実績報告、モデル事業終了に伴う本実施開始に係る協定、年会費改定案、通訳時間変更の提案、請求書様式一部修正の要望について討議。その後、医療通訳システム事業実施要領(案)、年会費について市民病院機構側と協議を重ねる。年会費は「システム参加費」と名称を変更のうえ覚書を締結。(2016年12月15日)

(ハ) システム参加費

システム参加費は、改定案の了承と関係者による取り決めのとおり、モデル事業実施中(2016年度まで)は中央市民病院と西市民病院はまとめて市民病院機構が負担(2016年度は377,460円)、こども病院は17,280円、神大病院は87,048円で前年度実績による金額算出方式。西神戸医療センターと尼崎総合医療センターには1件ごとにコーディネート費(1,728円)を加算し請求した。※金額はすべて消費税込

(ニ) その他

ウェブサイトから医療通訳者の新規登録申込みができるようになったことに加え、メールマガジン等でも募集告知を強化。新規登録者には面談を行い、関係者間の信頼関係を初期の段階で築き、実践の場に出やすい環境を整えることを重視している。

② 兵庫県医療通訳派遣制度事業(予算:200万円)

- ・医療通訳研究会

県内全域での医療通訳派遣制度の本格実施へ向け、事業導入にかかる課題を検討する研究会を開催。参加者は行政(兵庫県、神戸市)、医療機関、国際交流協会、支援団体、研究者、医療通訳者、通訳コーディネーターなど。全3回(第1回、2016年9月8日、第2回、12月13日、第3回、2017年2月22日。場所いずれも兵庫県庁2号館会議室)

兵庫県の医療通訳システムを全国的な制度として“兵庫モデル”確立を目指し、このシステムを国へ直接提言することを目的に活発な議論が重ねられ、2016年度はひとまず「医療通訳制度確立に向けた研究会報告書」をまとめ県に提出した。さらに内容を深めるため議論を継続することとし、2017年度は県国際交流課が協議の場を設けることになっている。

・兵庫県北部・西部・淡路島における医療通訳実態調査（2016年11月）

目的は対象地域での医療通訳実態の把握と訪問先各機関における医療通訳への意識の確認と向上。特に医療機関には、通訳者ではない同伴者（子どもなど）が通訳することや通訳者がいないことが招く医療ミスなどのリスクを説明し、医療通訳システムを導入することがそれらのリスクを回避し医療の質を向上させることができるというメリットを含め、医療通訳モデルを紹介。

11月8日-南あわじ市福祉部健康課、兵庫県立淡路医療センター、NPO 法人淡路市国際交流協会、株式会社夢舞台ウェスティンホテル淡路

11月17日-兵庫県立加古川医療センター、ひめじ発世界、兵庫県立リハビリテーション西播磨病院

11月18日-SOZORO 城崎温泉ツーリストインフォメーション、城崎温泉観光協会、公立豊岡病院組合豊岡病院、豊岡市国際交流協会

・医療通訳の必要性を再考するオープンフォーラムー現場の経験から見えてきたことと今後ー（開催日：2017年2月4日（土）、会場：兵庫県立尼崎総合医療センター講堂）

県内では医療通訳は個人や団体の自助努力によって成り立っている。医療通訳を経験している NPO や医療機関が実践してきた調査結果や実務をふまえ、改めて医療通訳の必要性を再考し今後の展望を話し合い、いかにして持続可能なシステムにするかを討議。

登壇者は行政（兵庫県、神戸市）、医師・医療機関、国際交流協会、支援団体、研究者、医療通訳者、通訳コーディネーターなど。関心がある一般参加者側からの提案等もあり有意義な内容であった。

・広報ツール作成

「医療通訳実施ガイド」改訂（1,000冊 冊子名変更 旧タイトル「医療通訳派遣のしくみ」）

「医療通訳サービス」利用のチラシ 増刷（A5版 1,000枚、患者用、11言語で表記。）

③ Kobe International Medical Foundation (KIMF/神戸万国医療財団) (50万円)

医療通訳システム事業参加医療機関以外の病院への医療通訳派遣の謝金の7割（病院負担分 3,500円/4時間まで）、生活保護受給者の医療通訳料金患者負担分（1,500円/4時間まで、システム参加医療機関も含む）免除、遠方から赴く通訳者の交通費補助（システム参加医療機関も含む）、これらに係るコーディネート費に充当。

通訳件数 59 件、生活保護受給者支援件数 83 件（システム参加医療機関での延長料金 10 件含む）、交通費補助 35 件。収支は 13,580 円のマイナス。

依頼言語数 8 言語（中国語 [北京語]、広東語、ポルトガル語、ロシア語、ベトナム語、スペイン語、英語、モンゴル語）

神戸市内 8 病院、明石市内 3 病院のほか、西宮市、姫路市、小野市、大阪府高槻市内各 1 病院。三木市国際交流協会、明石市福祉課、病院担当者からの問合せや個人からの依頼と、認知症の疑いのある方に関わる国選弁護人からの依頼もあった。訪問診療時の通訳や、小野市の病院は交通機関等諸事情により電話通訳対応もした。

医療通訳利用継続希望の声は多数あり、2017年4月以降も協定病院以外の病院での新規医療通訳問い合わせもある。

④ その他寄附活動（寄附金：16,270円）

社会貢献事業である医療通訳システム事業の活動への共感として寄附を頂戴した。DVD や冊子の協力金も含まれる。こちらで KIMF 寄附金のマイナス分をカバーできた。医療通訳の周知とともに、この事業を支えるためには様々な場面での寄附を募る工夫が必要である。

(3) 受注コンテンツ制作事業

① Web・DTP

Web制作の場合、ほとんどWordPressを使用して構築した2016年度は、サイト完成後にその基礎的な操作方法についてマニュアル作成やレクチャーを請われることが多かったため、これに対応した。

2016年度は下記について受注を受け制作をした。

- ・法律事務所リーフレット（コンテンツ企画、制作）／法律事務所
- ・法律事務所ホームページアップデート（SEO基本設定、スマホ対応）
- ・法律事務所年間保守契約（2017年1月より）
- ・名刺制作アップデート、印刷手配（NPO団体、個人、FACIL内部）
- ・社会福祉協議会ホームページ（マイナーチェンジとコンテンツアップデートおよび、WordPress講習、更新マニュアル制作）
- ・障害者支援NPOホームページサイトリニューアル（企画、ディレクション、制作、WordPress講習、更新マニュアル制作）
- ・(株)マイチケット ホームページ（映像ページ追加、バナー差し替え、仕様変更に伴う作業、新着情報の統合）
- ・大学研究室ホームページ改定

② 映像・音声

兵庫区社会福祉協議会より、「ジュニア認知症サポーター養成講座」で活用する中学生向き啓発VTRを制作した。

(4) コーディネート事業

① 世界の食とおもてなしの出前サービス

本年度は依頼に至らなかったが、適宜提案などを行っていく。

② その他（研修企画、講師派遣・紹介等）

語学講師は、要求される指導内容の高度化と予算の伸び悩みが、ひきつづき問題となった。一部の言語で若干の料金アップに成功したが、講師への負担は小さくないと考えられる。

JICA 課題別研修「中米防災対策」業務委託公募に応募し企画競争に挑戦したが、惜しくも2位となり受託に至らなかった。しかし、研修内容は評価を得、今後の受託へ向け可能性が広がった。新分野を切り開くための取り組みを続けていく。

(5) 講演・講師・ワークショップ等

従来から受注機会が多かった多文化共生にかかる一般的な講演や、コミュニティ通訳・翻訳ボランティア向けの研修も含め、さまざまな講演・研修等の依頼を受けた（計16回）。

テーマは、FACILの活動全般の紹介、医療通訳事業の紹介、災害時の支援、インバウンド関連（異文化コミュニケーション）、Webサイトの運用方法など。

将来的に、いずれのスタッフでも平素の活動や適性を活かして講演・研修を担当できることを目的として、分担に配慮した。講演・研修等の場をきっかけに、多文化共生・多言語に関心の高い個人や団体とのネットワーク構築、新規の翻訳等受注につながった例もあった。

講演・研修講師等 実施実績（自主事業、委託事業を除く）

依頼者	実施日	内容	言語	講師
神戸学院大学(CS 神戸)	5月27日	地域コミュニティ入門 ゲストスピーカー	日	李 裕美
兵庫県立大学	6月8日	多文化共生論 ゲストスピーカー	日	村上 桂太郎
(公財) 全国市町村研修財団	6月28日	28年度第1回 JIAM 多文化共生マネージャー養成コース 講師	日	吉富 志津代
大谷大学	6月28日	ボランティア論 ゲストスピーカー	日	村上 桂太郎
(公財) しまね国際センター	6月25日	コミュニティ通訳ボランティア養成講座 企画・講師派遣	日 葡 "	吉富 志津代 中萩 エルザ(通訳者) 野中 モニカ 芙美(通訳者)
神戸市看護大学	7月16日	神戸研究学園都市(ユニティ)公開講座 「医療通訳をやってみませんか? 基礎から応用へ」講師(神戸市における医療通訳の取り組み)	日	李 裕美
(公財) 大阪府国際交流財団	7月27日	大阪府外国人向け行政情報提供窓口相談員ネットワーク会議 オブザーバー派遣(多言語支援の取り組みについて FACIL の事例説明等)	日	李 裕美 安西佐有理
財団法人 地域創造	8月20日	フィールドスタディ受け入れ	日	吉富 志津代
全国医療通訳者協会全国大会(NAMI)	8月28日	分科会「地域の医療通訳システム事例の報告」パネリスト	日	李 裕美
神戸学院大学(関西国際交流団体協議会)	12月9日	フィールドワーク受け入れ	日	李 裕美 村上 桂太郎
神戸市長田区社会福祉協議会	1月6日	団体 Web サイト運用方法講習 講師	日	田口 靖幸
(公財) 全国市町村研修財団	1月18日	28年度第2回 JIAM 多文化共生マネージャー養成コース 講師	日	吉富 志津代
神戸市	1月19日	医療通訳結核研修 講師	日	李 裕美
(公財) 神戸国際協力交流センター	1月27日	JICA 中米防災対策研修 講師	西	吉富 志津代 大城ロクサナ(ひょうごラテンコミュニティ)
「やさしい日本語」有志の会	2月9日	やさしい日本語勉強会 講師	日	李 裕美
奈良県	2月14日	行政職員のための在住外国人窓口対応セミナー 講師	日	吉富 志津代 大城ロクサナ(ひょうごラテンコミュニティ)
(公財) 大阪府国際交流財団	2月16日	大阪観光案内所「おもてなしステーション」総合相談窓口担当職員研修 講師(異文化コミュニケーション)	日	安西佐有理
東大阪市	3月2日	語学ボランティア研修会 講師	日	李 裕美
ひめじ発世界	3月5日	ひめじ地球市民教室「医療通訳—ことばの壁を超えるには」講師 (医療通訳の活動紹介)	日	李 裕美
堺市	3月15日	災害時の外国人支援に関する講演会 講師	日	村上桂太郎 大城ロクサナ(ひょうごラテンコミュニティ)
兵庫県	3月15日	平成28年度長期ビジョン審議会 総会委員出席	日	吉富志津代(代理:李 裕美)
(公財) 神戸国際協力交流センター	3月25日	災害時通訳ボランティア登録時/フォローアップ研修 講師・ワークショップ指導	日	李 裕美 安西佐有理

○その他、吉富が個人的に団体代表として講師を務めたセミナーは約20回

テーマ=多文化共生のまちづくり、青少年教育関連、外国人コミュニティ、通訳ボランティア研修各種（災害、医療、行政、母子保健、学校）、行政とNPOの協働、外国人の人権、災害とコミュニティラジオ、コミュニティビジネス関連、多言語情報提供関連、東日本大震災活動関連、TCCフィールドワーク系受け入れ、など。

(6) その他事業

① ことばの壁を越えて災害に備えよう！事業（JR西日本あんしん社会財団公募助成70万円、神戸まちづくり六甲アイランド基金30万円）

○通訳者が災害医療について学ぶセミナー

開催日時：2017年2月25日（土）14:00～17:00

会場：神戸常盤大学 4号館 4203教室

主催：（特活）多言語センターFACIL

共催：学校法人玉田学園 神戸常盤大学

参加：78名（うち、神戸常盤大会場50名[英語13、中国語6、スペイン語6、その他25]、遠隔会場28名[英語6、中国語7、スペイン4、ポルトガル6、ベトナム2、その他3]）

プログラム：

開会あいさつ 中村 忠司氏（神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部 法人本部長）

趣旨説明 吉富 志津代（特定非営利活動法人多言語センターFACIL 理事長）

第一部：講演 「災害時における医療の現場—過去の災害対応事例をもとに」

畑 吉節未氏（神戸常盤大学保健科学部看護学科 教授）

第二部：ワークショップ

ブレインストーミング「あなたならどうする？—もし被災地での医療通訳を頼まれたら」

通訳練習—被災地での医療看護の場面を想定したシナリオによる（英語、中国語、スペイン語およびやさしい日本語グループ別）

*（株）東和エンジニアリングにより、遠隔地の医療通訳勉強会会場（東京、名古屋、大阪）との中継、遠隔通訳システムを使った通訳（中国語）デモンストレーションも実施

○通訳者が災害医療について学ぶためのテキスト制作

「通訳者が災害医療について学ぶセミナー」の成果をまとめ、4言語分の災害医療通訳の練習用素材（英語、中国語、スペイン語、ベトナム語）を収録したテキストを作成し印刷した。多言語・多文化の背景を持つ人が安心して必要な医療を受けられる社会を目指して、通訳者やボランティアが技能を磨くためのテキストである。

○「多文化時代のコミュニケーションの奥義」（わかりやすく日本語で伝えるセミナー）

開催日時：2017年3月28日（火）17:00～18:30

会場：R3（アールサン）

主催：（特活）多言語センターFACIL

参加：16名

プログラム：

講演「多文化時代のコミュニケーションの奥義」日比野純一氏（（特活）たかとりコミュニティセンター専務理事）

グループワーク「やさしい日本語で考えてみよう！」金千秋氏（（特活）エフエムわいわい代表理事）

*ベトナム出身とブラジル出身の住民の方にアドバイザーとして参加をお願いした。

② 多文化・多言語まちはイキイキきらめき事業（神戸市パートナーシップ活動助成）

（内容）

地域社会の中で多文化共生および国際化の分野で高まりつつある関心や、解決していくべき課題をテーマに第一線で活躍する講師を招いた連続講座を下記の内容で計5回開催（場所はいずれもたかとりコミュニティセンター）。

第1回 日 時：2016年11月1日（火）19:00～21:00

内 容：地域の多文化を掘り返す～課題と可能性について

講 師：日比野純一氏（たかとりコミュニティセンター専務理事）

参加者：10名

- 第2回 日 時：2016年11月11日（金）19:00～21:00
 内 容：いま隣にある“難民問題”
 講 師：宗田勝也 氏（難民ナウ！代表）
 参加者：18名
- 第3回 日 時：2016年12月16日（金）19:00～21:00
 内 容：あなたの“まち”に暮らす技能実習生たち
 講 師：早崎直美 氏（RINK事務局長）
 参加者：19名
- 第4回 日 時：2017年1月27日（金）19:00～21:00
 内 容：外国人集住地域に学ぶ「子育て」
 講 師：猪熊弘子 氏（ジャーナリスト／東京都市大学客員准教授）
 参加者：15名
- 第5回 日 時：2017年2月21日（火）19:00～21:00
 内 容：ムスリムインバウンドを通じての多文化共生のまちづくり
 講 師：野村雄一 氏（関西ムスリムインバウンド推進協議会副代表）
 参加者：25名

各回の講座内容は1時間番組に編集して、FM わいわいでインターネット放送し、地元の商店街などでも広く聴いてもらえるようにし、FM わいわいのホームページからオンデマンドで番組を視聴できるようにした。

3 月には講座参加者に集ってもらいラウンドテーブルを開催し、講座内容を踏まえつつ地域団体・商店街・NGOなどで活動する人々がそれぞれの取り組みの現状の課題を意見交換し、多文化・多言語の推進による地域活性化と安心安全のまちづくりに向けて協働して取り組むべき活動の具体案を共有する機会とした。

<ラウンドテーブル>

- 日 時：2017年3月28日（火）19:00～21:00
 場 所：Rokkenmichi-3 (r3)
 講 師：<ファシリテーター>金 千秋 氏（フリーアナウンサー）
 <アドバイザー> 実吉 威 氏（市民活動センター神戸事務局長）
 参加者：20名

講座とラウンドテーブルの開催による場と知見の共有を通して、今後の地域活動において地域団体、行政、商店街、NGOなどで活動する人々の連携強化を図ることができた。地域の活性化や安心安全をテーマに掲げるまちづくりにおいて、外国人をはじめとする少数者はとすると見逃され、時には内実を問わずにネガティブな存在として排除される場合もあるが、この連続講座を通して、地域に暮らす少数者が持つ多様性こそ「まちの資源」であり豊かさとなるという認識を広くするきっかけを生み出した。

③ その他（TCC関連事業等）

○たかとりコミュニティセンターの事務局業務

2016年度もFACILで受託

- ・総会、理事会、事務局連絡会の議案、議事録・各種資料準備
- ・会計処理業務
- ・事業報告書等の所轄庁への提出、定款・役員の変更手続き、登記等、運営全般
- ・イベントや防災訓練などの行事等のコーディネート
- ・野田北ふるさとネットの会議への出席と活動の報告 など

○TCC-ICT委員会

中心的メンバーとして参加

○外国人コミュニティ支援

関西ブラジル人コミュニティ、ベトナム夢KOBE、ひょうごラテンコミュニティに対して必要に応じたサポートを継続。また、公益財団法人兵庫県国際交流協会、上記の三つの外国人コミュニティ、たかとりコミュニティセンターの三者協定による外国人県民サポート事業の実質上のアドバイザー役を、引き続き担った。

(7) ワールドキッズコミュニティに関する事業

<業務総括>

ワールドキッズコミュニティの長年の達成目標の柱ともいえる活動として実施した、二つ以上の言語環境で育つ子どもたちの言語形成に配慮した教育環境整備事業（トヨタ財団国際助成事業）もしめくりの年になり、2017年度へつなぐあらたなステージを作っていく年でもあった。昔からの中国系移民の受け入れの中で、バイリンガル教育の知恵があること、また移民の送り出し国として日本に連れてこられた子どもたちが戻ってくるケースも多いフィリピンの研究者や実践者と言語形成に関する知見を共有するため、8月から9月にかけてフィリピンの3つの大学でバイリンガル教育に関する説明会と意見交換会を開催した。また、2015年度に実施したシンポジウムおよびラウンドテーブルの報告書を発行すると共に、今後もバイリンガル教育に関する提言活動の仕組みを維持・展開し、外国にルーツをもつ子どもたちの成長環境に関する課題について、外国人コミュニティの現場からの声をつなぎながら、その解決に向けてより大きな枠組みで取り組んでいくためネットワークの事務局的な役割を引き受けていくための準備に努めた。今後につなげるための体制強化として、トヨタ財団助成事業の実施に当たってコアメンバーとして共に活動した方々を新たに運営委員に向かえ、運営体制を刷新した。

<運営委員>

吉富 志津代	(代表)
村上 桂太郎	(事務局長)
松田 陽子	兵庫県立大学経済学部 教授
金 信輔	一般社団法人コリア教育文化センター 代表
山本 則子	神戸市立長田南小学校 非常勤教員
落合 知子	神戸大学国際人間科学部 教員
李 裕美	FACIL 事務局長
坂田 岳彦	京都嵯峨芸術大学 教員

① 児童・青少年育成事業

多様な背景を持つ子どもたちの育成活動 (Re:C 事業)

※「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」市民団体助成 (40万円)

Re:Cは映像をはじめ、メディアを使った表現活動を通して子どもたちが成長し、自らのメッセージや感性を自信をもって社会に発信していく、という開始当初からの目的に則り、多くの子どもたちが活動に参加できるように、ベトナム夢 KOBE やひょうごラテンコミュニティとの連携を深めていった。サロン活動については、ベトナム夢 KOBE の母語教室事業と連携し、特に小学生の参加者を拡充し、表現活動など、今後の活動の中心メンバーとなる参加者を育成するため、これまで高校生がメインとなっていた昨年度までの活動を刷新し、子どもたちが参加しやすく、かつ自分たちのニーズが満たされると感じられる遊びメニューの充実に努めた。また、子どもたちの豊かな将来設計に貢献することを目的に、自然体験や野菜作り、木工体験などを企画した。あいにく、天候に恵まれず畑での自然体験は2017年度に延期となったが、夏休みの工作づくりをかねた木工体験教室を開催することができた。今後も、環境やリサイクルといったより広い観点から人と社会を見つめ、自らの成長を促せて行ける機会を定期的に提供できるように、努めていきたい。2016年度の特筆すべきこととして、年明けから、サロン活動に参加する子ども達の発案で、自分たちで楽しめると思える企画を立てて映像制作を行い、動画配信サイト

(Youtube) で発信する活動が挙げられる。年度内に撮影した5本の作品のアップが完了しており、サポーターを初めとした人々からも好評を博している。子どもたちの好奇心を豊かにし、表現力を養う機会としてこの映像制作活動を拡充していきたい。

○映像制作

小中学生の子どもたちが映像制作に親しめる機会として、自分たちで楽しめると思える企画を立てて映像制作を行い、動画配信サイト（Youtube）で発信する活動を始めた。1月から3月にかけて撮影した5本の作品を下記のサイトにアップした。

<https://www.youtube.com/user/ReC338>

○居場所づくり

- 1) 毎週土曜日にコミュニティサロンを開催。近隣の小学校に通うベトナムルーツの子どもたちを中心に約15名が参加
- 2) 10月29日にハロウィンパーティを、12月17日にクリスマス会を開催
- 3) 8月27日に夏休み木工教室を実施。10月に畑での自然体験を実施する予定だったが、次年度に延期
- 4) 遠方の子供達を対象に車での送迎を実施

○食育活動

- 1) 10月29日にハロウィンパーティにあわせて料理作りを実施

○ニュースレターの発行

- 1) 活動内容を報告するニュースレターを11月に発行（約250部）

○その他

- 1) 野田北部の夏祭りに輪投げで出店（8/6, 7）

② 発信・啓発／政策提言事業

（イ）バイリンガル環境で育つ子どもたちの言語形成に考慮した教育環境整備事業 ―韓国との連携で広げるネットワーク構築へ―

トヨタ財団助成事業：2014年11月～2016年10月（2年間）計1100万円

※なお助成先はワールドキッズではなく、吉富が代表者となったバイリンガル提言プロジェクト

村上（ワールドキッズコミュニティ）が事務局を勤めた

<企画概要>

日本の公立学校に通う外国人児童生徒が学校教育を通して、一人一人の言語習得状況を踏まえ、各自の段階に応じて日本語と母語の二つの道筋を考慮した学習指導を可能とする教育制度の確立のための活動を実施する中で、移民受け入れ先進国の言語教育の事例から学ぶことと同時に課題もみえてきた。そこでトヨタ財団に申請し、2014年11月より2016年10月まで、移民を受け入れている韓国にも存在する言語形成に関する教育課題解決のため、移民先進国および日系南米人の経験と取組みの情報共有をする機会を作り、関係者同士のネットワークを構築することで、二つ以上の言語環境で育つ子どもたちにとってよりよい公的教育への提言／方策を考えていくための活動に取り組んだ。

<実施内容>

昔からの中国系移民の受け入れの中で、バイリンガル教育の知恵があること、また移民の送り出し国として日本に連れてこられた子どもたちが戻ってくるケースも多いフィリピンの研究者や実践者と言語形成に関する知見を共有するため、フィリピンにおける下記のような日程をくみ、3つの大学でバイリンガル教育に関する説明会と意見交換会を開催した。

- ・ミンダナオ州立大学イリガン工科大校（8/30）
- ・フィリピン大学 Asian Center（9/1）
- ・St.トーマス大学 Research Center on Culture, Education, and Social Issues

<成果>

昨年8月に韓国・日本で開催したシンポジウムにはそれぞれ100名以上の参加があり、今回のシンポジウムの企画における狙い通り、学校現場で教職についている方や外国人児童の保護者が多く参加してもらうことができ、そうした参加者に外国人児童生徒が置かれた状況について、先駆的な教育の実践事例や、ロールモデルとなりえる人物の経験談の紹介を通して、より前向きに、また、より深く考えもらえる機会を提供できた。

そして、日本国内のみならず、同じ社会的課題をもつ韓国との共同プロジェクトとして、国際シンポジウム等の開催を企画、運営をしていくプロセスにおいて、韓国における、言語形成に視点を置いた教育環境の関係者（学校現場の教員、保護者など）および研究者、行政機関の関係者と、日本でこの課題を共有する研究者、教育現場に携わる教員や保護者、NGO/NPO や当事者たちとのつながりを形成することができたことが大きな成果といえる。

多民族・多言語社会であるフィリピンでは教育を修めたり、いい仕事を得るにあたって英語は必須であり、2言語以上の環境で育つのは当然のことである。母語は家庭で学び使われるもので、パブリックな場面はすべて英語でという考えが自明とされ、英語教育の重要性は叫ばれても、母語の重要性が顧みられることはほとんどなされてこなかった。そのため多くの研究者をふくめて、日本や韓国におけるバイリンガル教育に関する現状の課題と重要性を説明しても、自分たちとの背景の違いからなかなか理解されないのではないかという不安があった。ミンダナオ州立大学で行われたグループディスカッションにおいて、フィリピンの英語教育の現状と課題について発表してくれた研究者より、高等教育において英語を媒介語として採用し英語教育に力を入れた結果、期待とは裏腹に国内全体で子どもたちの学力低下が進み、その背景には公用語とされるタガログ語やフィリピン語以外の現地語を話す大半の学習者にとっては、十分に英語を修得する前の段階で、十分に教養を身につける言語的なサポートがなく学習機会から排除されている現状が報告された。本プロジェクトでその重要性を訴えてきた一人一人の母語に配慮したバイリンガル教育の実践について、多くの関心を集め、取り組みを重ねていくことは、フィリピンのような多言語国家における子どもたちの言語形成上の課題の解決にも応用していけるのではないかという発見があった。

○双方向イマージョン教育の紹介ビデオ

バイリンガル環境で育つ子どもたちの言語形成に考慮した教育環境整備事業に関連して、昨年度に作成した「ひのきインターナショナルスクール」の双方向イマージョン教育の紹介ビデオの英語版を制作し、フィリピンにおける下記の大学でのグループディスカッションで上映した。

- ・ミンダナオ州立大学イリガン工科校 (8/30)
- ・フィリピン大学 Asian Center (9/1)
- ・St. トーマス大学 Research Center on Culture, Education, and Social Issues

また、日本語・英語・韓国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語の計6言語それぞれの言語環境で視聴可能なDVDを制作した。

○事業実施報告書

2015年8月に開催した国際シンポジウム「2つ以上の言葉の狭間で生きる子どもたち」、および同時期に日本と韓国で開催したラウンドテーブルについて、先に発行された韓国語側の編集による報告書の内容を踏まえつつ、そちらでは含まれていなかった日本でのシンポジウムの内容を中心とした報告書をコアな企画参加メンバーが中心となって100部刊行した(10月)。3年間にわたって事務局をつとめたトヨタ財団プロジェクトの関係者に配布した。

○保護者向け母語教育マニュアル

外国人児童生徒の補助者を主な対象とした言語形成に関する対応マニュアルの作成については、企画参加者会議の中で作業部会を設置し、内容の編集を進め、韓国語版/英語版/スペイン語版(いずれも日本語と併記)として完成させ、各言語300部ずつ刊行した(8月および10月)。神戸コリア教育文化センター、ひょうごラテンコミュニティや県内の母語教育関係者に配布した。

(ロ) 母語教育支援研修会

兵庫県国際交流協会と共同で3月25日に平成28年度母語教育支援研修会「2つ以上の言語環境で生きる子どもたちの未来のために」を開催

③ その他、当事者団体との連携等

- 神戸市教育委員会の「外国人児童生徒支援団体との情報交換会」に参加（6/10）
- 長田区の子どもたちの健全育成に取り組む地域団体によるネットワークながたっ子ネットの参加団体として活動

(8) 広報・発信啓発・ファンドレイジング

① 広報/発信啓発のためのコンテンツ

(イ) FACIL のホームページ運用

○翻訳・通訳者登録フォーム追加

これまで煩雑であった翻訳・通訳者登録手続きを、Web サイトで済ませることができるようになり、FACIL コーディネーターの事務負担を軽減した。また、登録希望者にとっても Web サイトから申し込みできることで気軽に申し込みができるようになったことで登録希望者の増加につながった。

○ナレーション Web コンテンツの充実

2015 年に翻訳・通訳の手配以外の新しい方向性の一つとして外国語ナレーションサービスの充実を打ち出した。これを引き継ぎ、今年度はコンテンツを企画・編集、デザインまでを行った。

他社との差別化を明確に打ち出すこと、外国語ナレーターを検討しているユーザーが他社でなく FACIL ナレーションを選ぶべきメリットを中心に据えてコンテンツ策定を行った。

○医療通訳コンテンツ（企画構成中）

(ロ) FACIL のその他コンテンツ

- 「通訳者が災害医療について学ぶセミナー」広報用チラシ（コンテンツ編集、制作）
- 医療通訳の必要性を再考するオープンフォーラム広報用チラシ（コンテンツ編集、制作）
- 災害医療講座テキスト表紙
- SNS、インターネット、メールを活用した情報発信

- ・ Facebook：医療通訳関連の情報以外にも、他の活動の案内・報告、事務所の日々の様子、TCC の仲間の活動や他団体からの案内など多岐にわたって掲載している。セミナーの参加申込やコメントを Facebook を通じていただくこともあり、コミュニケーションツールとして育ちつつある。
- ・ ブログ： Facebook での情報発信に移行しつつあるため、ブログの記事は減少。今後、Facebook に一本化するほうがよいのではないかと。
- ・ Twitter（2011年8月～）： FACIL の業務案内を、曜日がわりで自動ツイート（1日1～2回）。随時、FACIL や多文化・多言語に関わる周辺団体のイベント情報なども発信。フォロワー数は約 150 件。
- ・ メールマガジン「FACIL117! だより」（2014年7月～）： FACIL 翻訳・通訳登録者（翻訳・通訳会員）のうちの無料購読希望者が対象（2017年3月末現在 275 人）。
 - － 発行方法は、主に Google グループを利用。
 - － 2016 年度の発行号数は、4月・23号より 2017年3月・37号まで計 16 号。
 - － 配信内容は前年度どおり、FACIL や協力団体等のイベント案内、活動報告、業務上のヒントや募集情報が中心。2016 年度も、研修会や冊子発行の案内などに随時、反響があった。E メールアドレス等の変更、税務、なりすましメールの警告など、比較的重要な通知も掲載したが、登録手続きをしていない旧来からの会員や、受け取りを希望しない新規会員も多いため、単一の連絡手段とはなっていない。

(ハ) ワールドキッズのホームページ運用

記事の更新、及び、サイトの保守管理

(二) ワールドキッズのその他コンテンツ

○バイリンガル環境で育つ子どもたちの言語形成に考慮した教育環境整備事業韓国との連携で広げるネットワーク構築へー報告書

○バイリンガル教育副読本「はじめよう！母語学習」

全11 ページ。英語、中国語、韓国朝鮮語、スペイン語制作。

② ファンドレイジング

(イ) Web を活用した物品などの販売など

Web を通して寄付につながるしるしを準備した。

(ロ) その他

4月～9月まで月1度のペースで、ファンドレイジング戦略ミーティングを実施（参加者：李、田口、村上）

③ その他

【執筆】

○吉 富

・Multilingualism and Public Interest Interpreting and Translation in Japan（「日本の多言語主義と公益通訳翻訳」）（仮題）2017年明石書店出版予定

第5章「The Current State and Societal Impact of the Multilingualization of Various Forms of Media（多様なメディアにおける多言語化の現状と意義）」（仮題）

第6章「Multilanguage in Community based disaster management（コミュニティ防災の視点における多言語）」（仮題）『Multilingualism and Public Interest Interpreting and Translation in Japan（「日本の多言語主義と公益通訳翻訳」）』

コラム：Multilingual Media as a Tool of Expression for Minorities（マイノリティの発信ツールとしての多言語メディア）

○李

*NAMI ニュースレター第1号（一般社団法人全国医療通訳者協会、2017年3月発行）「医療通訳システム構築事業」

○村 上

*『外国人の子ども白書』（明石書店）「第9章 子ども支援の現場」でRe:Cの活動紹介

(9) 会員・インターン

多言語センターFACILおよびワールドキッズコミュニティは、個々の背景によりわけ隔てられることなく、より多くの市民が参加できる多文化なまちづくり活動を創出・継続していく集団として活動してきた。

現在に至るまで、翻訳・通訳登録者や会員など多くの協力者からの関心と理解によって支えられてきた。それぞれの活動がさらに社会変革につながる大きなうねりとなるためにも、ターゲットを絞った情報発信や細やかな活動報告を通じて、これまで以上に多くの人たちと有機的につながり、課題や活動内容を共有することが益々求められる。

「多文化共生」「NGO/NPO」の現場での実習を行える場として、毎年大学や団体、個人からインターンやボランティアの希望があり、業務ベースでの実習を基本に受け入れている。働き手としてだけではなく、持続的な関係の中で目的やビジョンを共有できる「仲間」となっていくことを目指している。

このような様々な協力者の個人情報および関連する情報を一元的に管理、運営するデータベース（人的資源管理データベース）を運用する。

① 多言語センターFACILの会員制度

翻訳・通訳登録者1,170名（会費なし）、正会員12名（うち団体1/会費：5,000円）、賛助会員1名（会費：3,000円）が登録されている。

業務遂行上、正会員で協議をするプロセスをとりにくいこともあり、正会員を増やすことには特に積極的ではない方針をとっている。コミュニティビジネスを扱うため賛助会員を募ることに工夫が必要である。むしろ、日常および災害などの緊急時に実務を連携する翻訳・通訳登録者を多く募り、そのネットワークを広げることに主眼をおいているが、このデータベースは、連携した他の活動にも大いに活用できる。

② ワールドキッズコミュニティの会員制度

2016年度にRe:Cの活動の賛助会員としてサポーター年会費を納入してくれたのは32名・2団体（前年度より6名増）。サポーター年会費の納入は義務ではなく、私たちの活動に対するリアクションであり、期待のバロメーターともなることを再確認し、活動そのものとニュースレターを通じた発信を続けていく。

③ 会員・人的資源管理データベースの構築・運用

データベースは代表者とシステム管理者からなる管理チームが共に管理・運用の主体となり、システム構築や管理など技術面を担当するシステムアドミニストレータ（管理者）を管理チームが任命し、各データの inputs は実務者が行っているのが建前である。

しかし、マニュアルがない状態であるので、データベース登録内容の活用が模索状態である。

FACIL業務の円滑化、コーディネーター増加に伴い日常的にデータベースを閲覧・入力できるスタッフが増えたが、不可解なデータの消滅など説明が急がれる現象も発生している。

○データベース登録内容が活用されるべき場面

- ・多言語センターFACILの通常業務
- ・多言語センターFACIL登録者へのサービスや活動報告
- ・Re:Cサポーターへのサービスや活動報告
- ・インターン、ボランティアなど人材の管理
- ・多文化なまちづくりに関心を持つ人々への情報発信
- ・各種催し等の広報
- ・関心や行動傾向など、協力者の実態調査、比較検討等
- ・その他、管理チームが必要と認めたもの

④ インターンシッププログラム

「多文化共生」「NPO」「コミュニティビジネスとしての翻訳・通訳事業」の現場での実習を行えるとして毎年大学や団体、個人からインターンの希望があり、業務ベースでの実習を基本に受け入れている。働き手としてだけでなく、持続的な関係の中で目的やビジョンを共有できる「仲間」となっていくことを目指している。

2016年度は、前年度（37名）に比べて減少したものの、多くのインターン生を受け入れた。近年就職活動の一貫としての企業インターンシップが増えており、FACILのような一般のインターンシップへの応募が減少する傾向にあるが、その分FACILインターンシップを選んで応募する学生の目的意識は高いように感じる。業務内容としては、翻訳コーディネーター補助、医療通訳コーディネーター補助、イベント運営補助など、FACILの活動に幅広く関わってもらった。

<2016年度インターンシップ参加者内訳>

FACILインターンシップ	大学生（院、専門学校生を含む）	社会人	合計
翻訳コーディネーター補助	2名	0	2名
多文化な背景をもつ子どもたちの育成支援と表現活動支援	1名	0	1名
小計			3名
大学などのインターンシップ	時期等		人数
関西国際大学	夏期と冬期、10日間程度		3名
アップ職業訓練校	約4週間の職業訓練実習		5名
京都外国語大学	イベント時運営補助		7名
小計			15名
合計			18名

(10) 研究調査・ネットワーク

【学会】

- 吉 富 *移民政策学会 *多文化関係学会 *日本公共政策学会

【非常勤講師など】

- 吉 富

*京都外国語大学「NGOとNPO活動入門」「コミュニティビジネス」「多文化共生」（プロジェクト科目）

*関西学院大学 学際トピックス「多言語社会・多文化共生」

*名古屋外国語大学大学院 「グローバル共生研究Ⅰ-多言語多文化マネジメント論」

「グローバル共生研究Ⅴ-グローバル視座からの多言語多文化共生社会論Ⅰ」

*大阪大学（「グローバルコラボレーションの理論と実践」）

- 村 上

*関西学院大学（人権教育科目「多文化社会と人権」）

【ネットワーク】

- 吉 富

*たかとりコミュニティセンター 常務理事

*NGO神戸外国人救援ネット 設立メンバー／運営委員

*ベトナム夢KOBE 運営委員

- *兵庫県外国人県民共生会議 メンバー
- *特定非営利活動法人 CODE 海外災害援助市民センター 理事
- *財) 兵庫県人権啓発協会 人権問題研究アドバイザー
- *ひょうご市民活動協議会 共同代表
- *株式会社マイチケット (国土交通大臣登録旅行業 961 号) 顧問
- *兵庫県「若人の賞」 審査委員
- *特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事
- *財) 箕面市国際交流協会 評議員
- *兵庫県長期ビジョン審議会 委員
- *西日本地区入国者収容所等視察委員
- *特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会 評議員
- *豊中市国際交流センター指定管理者選定評価委員会 委員
- *「ひょうご安全の日推進県民会議」企画委員
- *自由都市・堺 平和貢献賞選考委員会 委員
- *大阪市経済戦略局「外国人留学生との連携拡大及び起業支援事業」選定委員
- *大阪市姉妹都市交流推進事業補助金交付対象事業選考会 委員
- *名古屋外国語大学 特別研究員
- *京都府国土強靱化地域計画専門家会議 委員

○李

- *NGO 神戸外国人救援ネット 運営委員

○村 上

- *長田区民まちづくり会議のびやか部会 (ながたっ子ネット) 委員
- *特定非営利活動法人遊び雲 監事
- *野田北部ふれあいのまちづくり協議会運営委員

○田 口

- *ひょうごんテック世話人会メンバー

(11) 管理部門

① 総務全般

2016年度は、新しい体制をさらに整備するために、有給休暇や就業時間などを中心に就業規則を見直し、理事会、常任理事会、スタッフ全体会議をへて協議を重ね、2017年度からの施行につなげた。

引き続き、代表者(吉富)への講演依頼をできるかぎりスタッフへ分散し、多くのスタッフが講演依頼に対応できるように務めた。

常勤/非常勤職員について、一律の給与昇給・ボーナス支給(7月と12月)を実施した。

② 労務・人事・福利厚生

労務の諸手続等、総務的な側面もあるので、主に総務担当者が労務士と緊密に連絡を取り、円滑なる業務の遂行に努めた。実務は労務士に依頼している。

特筆すべき点としては、主に翻訳・通訳事業の事業拡大に伴う人員増強のため、10月に職員の求人募集をし、11月15日より山口まどかさんを新規採用した。また今年度も3月に常勤職員の企業健診を実施した。

③ 会計・税務

会計入力業務を外部に委託しているが、事務局との情報の共有がうまくいかないことも要因となり、年度末の会計処理ではミスが目立った。早急に何らかの改善策を講じる必要がある。

スタッフ間では出入金に関する内部のルールの共有が強化され、業務の遂行に改善が見られたが、受発注のデータベースとの連携をさらに図る必要がある。

今年度も税務申告は高税理士事務所に委託した。

④ 庶務

庶務に関する担当者を決めているが、業務の繁忙期には全員でカバーすることの必要性がある。また、文具等消耗品、電気代節約等経費削減の意識は高く浸透している。

TCCの団体としてNPO棟の毎月1回の掃除当番があるが、繁忙期にはおろそかにしがちであった。清々しい気持ちで業務にあたるためにも、繁忙期こそ率先して清掃活動に取り組むべきである。

⑤ PCセキュリティ対策／メンテナンス／LAN管理

リーフグリーンおよびひょうごんテック所属の緒方さんに継続的にICTメンテナンスを依頼中。

ネットワーク接続ハードディスク（NAS）の老朽化に伴って2017年度に入れ替えるため、年度末に購入。